

平成21年5月20日現在

研究種目： 基盤研究（C）
 研究期間： 2006～2009
 課題番号： 18520047
 研究課題名（和文） 『婆沙論』の総合的研究

研究課題名（英文） A Synthetic Study of Mahavibhasa.

研究代表者

佐々木 閑 (SASAKI SHIZUKA)
 花園大学・文学部・教授
 研究者番号：40225868

研究分野：インド仏教学

科研費の分科・細目：哲学、印度哲学・仏教学（2803）

キーワード：説一切有部、アビダルマ、アディカラナ

1. 研究計画の概要

古代仏教哲学の集大成である『婆沙論』の精密なデータベースを作成し、それを利用して、説一切有部内部の歴史の変遷と、大乘仏教成立の状況を解明する。

2. 研究の進捗状況

『婆沙論』に引用される、律、論書に関してはデータベースを完成。現在は、引用される経典の出典を追跡中。また、三本ある『婆沙論』の異同を示す対照表も八割方完成。さらには『婆沙論』内部の哲学的概念の変遷に関してもある程度の解明が進んだ。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

（理由）

いまだ、大乘仏教の発生源にまでは着手できていないが、当初目標としてかかげた、データベースの確立という作業に関しては約八割方、作業が完了した。

4. 今後の研究の推進方策

『婆沙論』に引用される、1500箇所以上の阿含経典の出典を追跡する作業が、当面最も重要になる。これを集中的に継続していきたい。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計6件）

①佐々木閑 「律蔵の中のアディカラナ 1」『仏教研究』、第35号、2007年、

135-193ページ、査読有

②佐々木閑 「『婆沙論』諸本の相互関係」『印度学仏教学研究』第56巻第1号、2007年、167-173ページ、査読有

③佐々木閑 「律蔵の中のアディカラナ 2」『仏教研究』、第36号、2008年、135-166ページ、査読有

④佐々木閑 A Basic Approach for Research on the Origins of Mahayana Buddhism, *Acta Asiatica*, Vol. 96, 2009, pp. 25-46、査読有

⑤佐々木閑 「有部の極微説」『印度学仏教学研究』第57巻第2号、2009年、211-217ページ、査読有

⑥佐々木閑 「律蔵の中のアディカラナ 3」『仏教研究』、第37号、2009年、141-189ページ、査読有

〔学会発表〕（計1件）

佐々木閑 「五色根の形状」、日本印度学仏教学会、2008年9月5日、愛知学院大学

〔図書〕（計0件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

○取得状況（計0件）

〔その他〕

該当なし